



株主・投資家のみなさまへ

第48期 中間事業報告書

平成17年1月1日から平成17年6月30日まで

- 1 株主・投資家のみなさまへ
- 3 営業の取り組み
- 5 重点新商品
- 6 トピックス
- 7 中間連結財務諸表
- 11 会社概要／取締役・監査役・
執行役員・グループ執行役員
- 12 グループ会社一覧
- 13 株式の状況
- 14 株主メモ／株主優待制度



株主・投資家のみなさまへ

中間期の経営概況と業績

今中間期における清涼飲料業界は、ミネラルウォーターおよび日本茶の牽引により市場全体では成長いたしました。量販店における激しい価格競争や相次ぐ新商品投入によるコスト増加など、清涼飲料各社を取り巻く経営環境は一段と厳しさを増している状況であります。

このような状況において、当社グループは、大いなる成長力と活力に満ち溢れるCCWJグループに生まれ変わるべく策定した中期経営計画「皆革」の達成に向け、最終年度である当期を「さらなる飛躍の年」と位置付け、「皆革」の総仕上げと次期中期経営計画につなげるための活動にグループ一丸となって邁進いたしました。

その結果、連結ベースの今中間期の経営成績は、売上高が1,173億5千9百万円（前年同期比2.1%減）、営業利益が53億1千3百万円（前年同期比35.9%減）、経常利益が55億9百万円（前年同期比34.3%減）ならびに中間純利益が25億4千3百万円（前年同期比46.2%減）となりました。

「皆革」達成に向けた今期の取り組み

営業面におきましては、基幹ブランドの徹底強化や成長カテゴリーにおける新商品の投入など積極的なマーケティング活動を展開するとともに、チャネルの特性に応じた販売促進活動を推進いたしました。

まずブランド戦略として、既存ブランドの徹底強化をはかるべく、「コカ・コーラレモン」や「アクエリアスアクティブダイエット」などを導入し、緑茶飲料市場における基幹ブランドを確立すべく「一（はじめ）」を導入するなど、新商品の投入や各種キャンペーン活動を積極的に展開いたしました。

また、自動販売機の販売情報や故障情報を活用し、売切れの防止、訪問効率の向上および故障対応時間の短縮をはかるための自動販売機のIT化など、営業基盤の強化に継続して取り組みました。

生産・需給面におきましては、全国のコカ・コーラシステムの調達・製造・物流の最適化を担うコカ・コーラナショナルビバレッジ株式会社が1月より本格稼働を開始しており、現在、当社と協働しさらなるコスト低減に向けた活動を推進しております。

中期経営基本方針「皆革」^{かいかく}

- ・ お客さま、お得意さまに必要とされるCCWJグループへの『皆革』
- ・ 飲料ビジネスをリードするCCWJグループへの『皆革』
- ・ 役割・機能を徹底追求するCCWJグループへの『皆革』
- ・ 社員と組織の活力を引き出すCCWJグループへの『皆革』
- ・ 社会と共生するCCWJグループへの『皆革』

中期経営基本政策

- ・ 新たなビジネスシステムの構築
- ・ CCWJグループ経営の強化
- ・ 人材マネジメント改革
- ・ 社会との共生

次に管理面におきましては、グループ全体での経営効率をはかるため、グループ各社で個別に行っている人事、購買および経理業務など間接業務の集約化に取り組み、コカ・コーラウエストジャパンベンディング株式会社およびコカ・コーラウエストジャパンロジスティクス株式会社につきましては、5月に集約化を完了いたしました。なお、引き続き西日本ビバレッジ株式会社およびコカ・コーラウエストジャパンカスタマーサービス株式会社につきましても、平成18年1月からの集約化に向け取り組んでまいります。

「皆革」達成に向けた活動を継続

今後の見通しにつきましては、企業収益の改善による設備投資の増加や雇用情勢の改善などから着実な景気回復が期待されるものの、税負担の増加をはじめとする先行きの不透明感から、個人消費は引き続き厳しい状況で推移するものと見込まれます。また、清涼飲料業界におきましても、市場の大きな伸びが見込まれない中、メーカー間の競争は一段と激しさを増し、依然として厳しい経営環境が続くものと予想されます。

このような状況の中、当社グループは、中期経営計画「皆革」の最終年度である平成17年を「さらなる飛躍の年」とすべく、グループ一体となって「皆革」達成に向けて継続した活動を展開してまいります。

配当金について

平成17年12月期の配当金につきましては、株主さまのご支援にお応えすべく、当期の中間配当金を1株当たり20円、期末配当金(予想)を1株当たり20円といたしました。これにより年間配当金(予想)は、1株当たり40円となります。

株主・投資家のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役
社長兼CEO

末吉 紀雄



営業の取り組み



ベンディング

ベンディングチャネルは、自動販売機を通じてお客さまに商品をお届けするビジネスであり、コカ・コーラウエストジャパングループの中核となるチャネルであります。

今期は、「徹底した消費者／アカウントサービスを基軸とした競争力／収益力の向上」を基本方針に自動販売機1台当たりのセールス拡大、新規開発活動の強化、自動販売機のIT化に注力してまいりました。その結果、優良ロケーションの獲得、商品の品揃えの最適化による全体セールスの押し上げにつながっております。

チェーンストア

チェーンストアチャネルは、スーパーマーケットにおけるビジネスであり、消費者のニーズも高く、特に成長が著しいチャネルであります。

今期は「収益性を伴った健全な売上とシェアの拡大」を基本方針に、お客さまがワクワクする買場をつくる「買場皆革」、販売する商品構成を見直す「商品皆革」、アカウント基軸の営業活動を進化させる「アカウント営業皆革」、の3つの「皆革」に取り組み、お客さまとお得意さま双方の満足度を向上させる活動を行っております。





コンビ・リテール

コンビ・リテールチャネルは、コンビニエンス・チェーン店やドラッグストア、一般食料品店、酒店などの手売りマーケットにおけるビジネスであります。

今期は、「お客さまの視点に立ったマーチャンダイジング活動を基軸としたシェアの拡大と収益の改善」を基本方針に、業態に応じた「選択と集中」のマーケティングの展開、新業態開発におけるあらゆるポテンシャルの獲得にチャレンジし、効率的なセールスの開拓を行ってまいりました。

その結果、多岐にわたる業種に対し、お客さま、お得意さまの求める品揃えやサービスを提供しております。

フードサービス

フードサービスチャネルはファーストフード、映画館、スポーツ施設、ファミリーレストラン、テーマパークなどを中心に、シロップ販売を行うビジネスであります。

今期は、「新たなファウンテンビジネスの構築」を基本方針に、お客さま視点での市場活動を強化し、新規マーケットの獲得と既存店の潜在セールス発掘といった活動を進めてまいりました。

このような活動によって、お客さまのニーズを的確にとらえ、ライフスタイルに応じた新たなマーケットの創造につなげております。



重点新商品

今中間期は、成長著しい緑茶飲料市場における基幹ブランドを確立すべく「一(はじめ)」を導入するなど、新商品の効果的投入を行いました。

一(はじめ)

「一(はじめ)」はお茶作りの原点、お茶の本来のおいしさを知る「茶園農家の人が自家用に楽しむお茶」をヒントに、「つくりすぎない」ことで茶葉本来のみずみずしさと清涼感のある素朴で自然なお茶を目指し開発されました。「一(はじめ)」というネーミングは、お茶作りの原点という意味の「はじめ」、また、素材本来の味わいに「はじめて出会う」といった意味がこめられており、誰もが覚えやすく印象に残るネーミングにしました。

「一(はじめ)」を今年の最重点新商品に位置付け、成長著しい緑茶飲料市場でのトップブランドを目指しております。



コカ・コーラ レモン

従来のコカ・コーラだけが持つ独特のおいしさ
と刺激はそのままに、さわやかなレモンフレー
バーをプラスした、さわやかなレモン味を実現。
すっきりとした後味で、飲み飽きない味わいに
仕上げました。



アクエリアスアクティブダイエット

「アクエリアスアクティブダイエット」は、'動かす
カラダのサポート成分'「アルギニン」「BCAA」と
'燃焼派のサポート成分'「イノシトール」「カルニ
チン」を組み合わせた新発想の機能性飲料水です。

近年注目を集める機能性飲料市場でのトップ
ブランドを目指します。



七色亜茶

アジア各地から選び抜かれた7つの色の茶葉を
ブレンドし、冷却時には「すっきりして爽快な
味わいと香り」と、常温時には「豊かな味わいと
華やかな香り」の異なる味わいと香りが楽しめ、
さまざまなお客さまの飲用スタイルに対応した
革新的なアジア茶です。



大豆ノススメ

「大豆ノススメ」は、日本人の健康維持をサポート
するために、大豆イソフラボン20mgを配合し、
かつ豆乳の味が苦手な方でも美味しく手軽に飲む
ことができる、「健康価値」と「美味しさ」を両立させた
国民健康飲料です。



トピックス

「天然ガス化」と「コージェネレーションシステム」を佐賀県鳥栖工場に導入・稼動開始

当社グループでは、CO₂排出量の削減による環境負荷の低減とエネルギーコストの低減による経済効果をねらい、コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社鳥栖工場において、燃料の天然ガス化を行うとともに、コージェネレーションシステムを導入しました。

天然ガスは、硫黄分やその他の不純物を含まないため燃やしてもSO_xやスグが発生しないことや、地球温暖化の原因といわれるCO₂の排出量も石油より20～30%減少させるなどの特長をもっています。また、当社グループが採用したコージェネレーションシステムは、天然ガスを燃料として発電するとともに、発電時に発生する排熱を冷暖房や給湯、蒸気などの用途に有効利用することが可能なエネルギー交換効率の高い省エネルギーシステムです。



西日本初、「災害対応型自動販売機」を 島根県安来市に設置

当社グループは、新しい防災計画を策定中の島根県安来市と災害対応型自動販売機の運用協定を結び、西日本で初めて災害対応型自動販売機を導入いたしました。同市では今後、市役所をはじめとして市民体育館や私立病院などの公共施設への導入を計画しており、年度内に30台を導入する予定です。さらに出雲市でも導入が予定されており、その他の自治体も導入を検討しております。

災害対応型自動販売機は2つの特長を有しており、大地震などの災害が発生した場合、上部に搭載した電光掲示板で避難場所など、各種行政情報の随時提供が可能になるとともに、上水道が被害を受けた時には、市役所からのパソコン操作で清涼飲料水を無料提供できる機能を搭載しています。



中間連結財務諸表

【流動資産】

流動資産は、前期末に比べ70億1千万円減少し、525億2千9百万円となりました。これは主として、コカ・コーラナショナルビバレッジ株式会社の本格稼動に伴い一部の拠点の商品在庫などを同社へ譲渡したことにより、たな卸資産が減少したことによるものであります。

※コカ・コーラナショナルビバレッジ株式会社：日本のコカ・コーラグループにおける全国サプライチェーンマネジメント（SCM）構築のため、ザ・コカ・コーラカンパニーおよび全国コカ・コーラボトラー社との共同出資により2003年4月に設立。2003年10月から事業を開始しており、全国規模での製造・需給計画および調整業務を統括し、ボトラー各社への製品供給を行う。

【固定資産】

固定資産は、前期末に比べ20億3千1百万円増加し、1,497億8百万円となりました。これは主として、退職給付にかかわる掛金の拠出に伴い前払年金費用が増加したことによるものであります。

※前払年金費用：退職給付制度において、退職給付債務に対して年金資産が超過した場合、その超過額を前払いしているものとして取り扱うもの。

中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	第47期 (平成16年12月期)	第48期中間 (平成17年12月期中間)
<資産の部>		
流動資産：		
現金及び預金	15,524	13,493
受取手形及び売掛金	13,669	12,438
有価証券	8,923	6,411
たな卸資産	12,762	7,136
その他	8,742	13,128
貸倒引当金	△ 81	△ 79
流動資産合計	59,540	52,529
固定資産：		
有形固定資産：		
建物及び構築物	18,559	18,022
機械装置及び運搬具	14,252	13,676
販売機器	17,196	17,370
土地	34,389	34,975
その他	1,438	2,135
有形固定資産合計	85,837	86,179
無形固定資産：		
連結調整勘定	34	—
その他	2,808	2,703
無形固定資産合計	2,843	2,703
投資その他の資産：		
投資有価証券	47,369	47,993
前払年金費用	7,749	8,842
その他	4,156	4,266
貸倒引当金	△ 279	△ 278
投資その他の資産合計	58,995	60,824
固定資産合計	147,676	149,708
資産合計	207,216	202,237

(単位:百万円)

科 目	第47期 (平成16年12月期)	第48期中間 (平成17年12月期中間)
<負債の部>		
流動負債:		
支払手形及び買掛金	7,891	3,272
1年以内に返済する長期借入金	203	—
未払法人税等	3,743	1,444
未払金	7,125	6,260
設備支払手形	96	190
その他	5,390	7,497
流動負債合計	24,451	18,664
固定負債:		
退職給付引当金	3,146	2,914
役員退職引当金	345	173
その他	7,874	8,227
固定負債合計	11,366	11,315
負債合計	35,817	29,980
<少数株主持分>		
少数株主持分	4,362	4,323
<資本の部>		
資本金	15,231	15,231
資本剰余金	35,400	35,400
利益剰余金	127,849	128,800
その他有価証券評価差額金	449	400
自己株式	△ 11,895	△ 11,899
資本合計	167,036	167,933
負債、少数株主持分及び資本合計	207,216	202,237

【流動負債】

流動負債は、前期末に比べ57億8千6百万円減少し、186億6千4百万円となりました。これは主として、コカ・コーナショナルビバレッジ株式会社の本格稼動に伴い商品代金支払条件が変更となり、買掛金が減少したことによるものであります。

なお、今中間期において長期借入金を返済し、当社グループの借入金残高はなくなりました。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

【売上高】

売上高は、前中間期に比べ24億9千1百万円減少し、1,173億5千9百万円となりました。これは主として、当社エリア内での販売数量が減少したことや、コカ・コーナショナルビバレッジ株式会社の本格稼働に伴う同社との取引方法の変更により、他ボトラーへの販売が減少したことによるものであります。

【営業利益】

営業利益は、前中間期に比べ29億8千1百万円減少し、53億1千3百万円となりました。これは主として、販売数量の減少に伴い売上総利益が減少したことに加え、平成15年度に行った退職給付制度変更に伴う増益効果がなくなったことによるものであります。

科 目	第47期中間 (平成16年12月期中間)	第47期 (平成16年12月期)	第48期中間 (平成17年12月期中間)
売上高	119,850	253,248	117,359
売上原価	66,036	139,675	65,557
売上総利益	53,814	113,572	51,802
販売費及び一般管理費	45,519	96,712	46,489
営業利益	8,294	16,860	5,313
営業外収益	563	1,090	588
受取利息	137	273	154
受取配当金	26	37	93
不動産賃貸料	150	294	143
その他	250	484	196
営業外費用	471	884	392
支払利息	4	8	—
有価証券売却損	44	—	—
固定資産除却損	230	463	183
不動産賃貸原価	75	135	66
その他	116	276	142
経常利益	8,387	17,065	5,509
特別利益	64	158	191
固定資産売却益	64	71	75
投資有価証券売却益	—	—	62
国庫補助金収入	—	86	53
特別損失	210	2,564	1,289
固定資産売却損	60	161	—
減損損失	—	505	—
台風災害損失	—	168	—
地震災害損失	—	—	65
固定資産除却損	—	88	10
投資有価証券評価損	—	40	16
ゴルフ会員権等評価損	4	55	—
子会社販売体制整備費用	—	383	—
子会社社名変更費用	—	—	33
新紙幣対応費用	145	583	1,014
退職給付信託一部返還に伴う数理差異一括償却額	—	576	—
酒税追徴額	—	—	149
税金等調整前中間(当期)純利益	8,241	14,659	4,411
法人税、住民税及び事業税	2,398	5,310	1,297
法人税等調整額	1,102	707	581
少数株主利益又は少数株主損失(△)	13	76	△ 9
中間(当期)純利益	4,726	8,564	2,543

中間連結剰余金計算書

(単位: 百万円)

科 目	第47期中間 (平成16年12月期中間)	第47期 (平成16年12月期)	第48期中間 (平成17年12月期中間)
＜資本剰余金の部＞			
資本剰余金期首残高	35,399	35,399	35,400
資本剰余金増加高	0	0	0
自己株式処分差益	0	0	0
資本剰余金中間期末(期末)残高	35,399	35,400	35,400
＜利益剰余金の部＞			
利益剰余金期首残高	122,372	122,372	127,849
利益剰余金増加高	4,726	8,564	2,543
中間(当期)純利益	4,726	8,564	2,543
利益剰余金減少高	1,533	3,087	1,592
配当金	1,503	3,057	1,553
役員賞与	30	30	38
利益剰余金中間期末(期末)残高	125,564	127,849	128,800

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

営業活動によるキャッシュ・フローは、前中間期に比べ39億8千6百万円減少し、57億6千9百万円のプラスとなりました。

これは主として、コカ・コーラナショナルビバレッジ株式会社の本格稼働に伴い同社から仕入れる商品代金の支払条件が変更となり、仕入債務が減少したことによるものであります。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

投資活動によるキャッシュ・フローは、前中間期に比べ6億7百万円支出が増加し、73億6千1百万円のマイナスとなりました。

これは、前中間期においては、効率的な資金運用を目的とした運用資産の見直しに伴い、保有していた公社債投資信託の解約を行ったことにより収入が増加しており、結果として投資活動によるキャッシュ・フローが低水準であったことによるものであります。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科 目	第47期中間 (平成16年12月期中間)	第47期 (平成16年12月期)	第48期中間 (平成17年12月期中間)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,755	21,502	5,769
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,753	△ 14,592	△ 7,361
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,422	△ 6,991	△ 1,776
現金及び現金同等物の減少額	△ 2,420	△ 81	△ 3,368
現金及び現金同等物の期首残高	21,869	21,869	21,788
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	19,449	21,788	18,419

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

財務活動によるキャッシュ・フローは、前中間期に比べ36億4千5百万円支出が減少し、17億7千6百万円のマイナスとなりました。これは主として、前中間期は、資本政策の一環とする自己株式取得に伴う多額の支出があったことによるものであります。

会社概要 (平成17年6月30日現在)

商号： コカ・コーラウエストジャパン株式会社
本社所在地： 福岡市東区箱崎七丁目9番66号
設立： 昭和35年12月20日
資本金： 152億3千1百万円
連結従業員数： 5,043名

主な事業内容： コカ・コーラ、スプライト、ファンタおよび
ジョージア等の飲料の製造・販売
上場証券取引所： 株式会社東京証券取引所（市場第一部）
（所属部） 株式会社大阪証券取引所（市場第一部）
証券会員制法人福岡証券取引所

取締役・監査役・執行役員・グループ執行役員 (平成17年6月30日現在)

取締役

代表取締役	桜井正光	会長、株式会社リコー代表取締役、社長執行役員
代表取締役	末吉紀雄	※
取締役	原田忠継	※
取締役	森井孝一	※
取締役	魚谷雅彦	日本コカ・コーラ株式会社 代表取締役社長
取締役	松尾新彦	九州電力株式会社 代表取締役社長
取締役	榎本一彦	福岡地所株式会社代表取締役会長、 ロイヤル株式会社代表取締役会長
取締役	石原進	九州旅客鉄道株式会社 代表取締役社長
取締役	井上雄二	株式会社リコーグループ執行役員、 リコーリース株式会社代表取締役、社長
取締役	赤星敏明	株式会社リコー福岡支店長、 リコー九州株式会社代表取締役社長

※印の者は、執行役員を兼務しております。

監査役

常任監査役	新見泰正	常勤
常任監査役	中川龍二	常勤
監査役	平川達男	株式会社リコー 代表取締役、副社長執行役員
監査役	大内田勇成	株式会社西日本シティ銀行 代表取締役、専務取締役
監査役	松崎隆	弁護士・徳永・松崎・青藤法律事務所パートナー、 日本弁護士連合会副会長

執行役員

社長兼CEO	末吉紀雄	
副社長	原田忠継	社長補佐（営業・ビジネスシステム・SCM担当）
副社長	森井孝一	社長補佐（管理部門担当）兼CSR統括部長兼皆軍推進室長
専務執行役員	森田聖	経営管理統括部長
常務執行役員	桂淳治	フードサービス営業統括部長
常務執行役員	佐古幸男	営業企画統括部長

常務執行役員	磯部満夫	SCM統括部長
常務執行役員	野見山昌三	リテール・ベンディング営業統括部長
常務執行役員	池龍彦	市場開発統括部長
執行役員	山崎正雪	SCM企画部長
執行役員	瀬戸俊憲	パートナー推進部長
執行役員	小川速雄	代理店営業部長
執行役員	津川勝造	チェーンストア営業統括部長
執行役員	佐藤繁次郎	ビジネスシステム統括部長
執行役員	時枝直剛	総務部長
執行役員	田口忠憲	財務部長
執行役員	姫野孝	福岡支社長
執行役員	麻原芳基	広島支社長

グループ執行役員

グループ上席執行役員	末安剛明	西日本ビバレッジ株式会社 代表取締役、社長
グループ上席執行役員	河辺捷義	コカ・コーラウエストジャパンロジスティクス株式会社 代表取締役、社長
グループ上席執行役員	三宅俊樹	鷹正宗株式会社 代表取締役社長
グループ上席執行役員	後藤正純	コカ・コーラウエストジャパンカスタマーサービス株式会社 代表取締役、社長
グループ上席執行役員	木原伸司	ニッポンコカ・コーラボトリング株式会社 取締役、専務執行役員
グループ上席執行役員	山崎裕二	コカ・コーラウエストジャパンベンディング株式会社 代表取締役、社長
グループ上席執行役員	柴田暢雄	コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社 代表取締役、社長
グループ上席執行役員	小田信爾	ウェストジャパンサービス株式会社 代表取締役社長
グループ上席執行役員	柴田卓男	コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社 取締役、常務執行役員
グループ執行役員	萩原幹才	コカ・コーラ ビバレッジサービス株式会社 標準システム推進部長
グループ執行役員	福田恒夫	コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社 取締役、執行役員
グループ執行役員	浜崎義明	コカ・コーラウエストジャパンベンディング株式会社 取締役、常務執行役員

グループ会社一覧 (平成17年6月30日現在)

西日本ビバレッジ株式会社

- **主な事業内容** 飲料の販売
- **本社所在地** 福岡市東区箱崎ふ頭五丁目1番6号
- **資本金** 100百万円 ● **代表者** 末安 剛明

株式会社ニチベイ

- **主な事業内容** 食品の加工
- **本社所在地** 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜6番9号
- **資本金** 80百万円 ● **代表者** 合原 昭

コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社

- **主な事業内容** 飲料の製造
- **本社所在地** 佐賀県鳥栖市轟木町二本松1670の2
- **資本金** 100百万円 ● **代表者** 柴田 暢雄

鷹正宗株式会社

- **主な事業内容** 酒類の製造・販売
- **本社所在地** 福岡県久留米市大善寺町黒田297番地
- **資本金** 90百万円 ● **代表者** 三宅 俊樹

コカ・コーラウエストジャパンベンディング株式会社

- **主な事業内容** 自動販売機のオペレーション業務
- **本社所在地** 福岡市東区松田二丁目2番32号
- **資本金** 80百万円 ● **代表者** 山崎 裕二

ウエストジャパンサービス株式会社

- **主な事業内容** 保険代理業、リース業、不動産関連事業
- **本社所在地** 福岡市東区箱崎七丁目9番66号
- **資本金** 60百万円 ● **代表者** 小田 信爾

コカ・コーラウエストジャパンカスタマーサービス株式会社^(注1)

- **主な事業内容** 自動販売機関連事業
- **本社所在地** 福岡県古賀市谷山871番地
- **資本金** 22百万円 ● **代表者** 後藤 正純

三笠コカ・コーラボトリング株式会社

- **主な事業内容** 飲料の製造・販売
- **本社所在地** 奈良県天理市嘉幡町643番地
- **資本金** 4,159百万円 ● **代表者** 藤野 忠雄

コカ・コーラウエストジャパンロジスティクス株式会社^(注2)

- **主な事業内容** 貨物自動車運送業
- **本社所在地** 広島市中区東千田町二丁目11番20号
- **資本金** 70百万円 ● **代表者** 河辺 捷義

三笠ロジスティクス株式会社

- **主な事業内容** 貨物自動車運送業
- **本社所在地** 奈良県天理市嘉幡町643番地
- **資本金** 50百万円 ● **代表者** 吉澤 稔

注1) 平成17年4月1日に西日本カスタマーサービス株式会社より社名変更

注2) 平成17年4月1日にロジコムジャパン株式会社より社名変更

三笠サービス株式会社

- **主な事業内容** 自動販売機関連事業
- **本社所在地** 奈良県天理市嘉幡町643番地
- **資本金** 90百万円 ● **代表者** 中嶋 脩貢

三笠ビバレッジサービス株式会社

- **主な事業内容** 飲料の販売
- **本社所在地** 奈良県天理市嘉幡町643番地
- **資本金** 10百万円 ● **代表者** 樽谷 中

株式の状況 (平成17年6月30日現在)

- 会社が発行する株式の総数： 270,000千株
- 発行済株式の総数： 82,898千株
- 株主数： 17,485名

● 大株主：

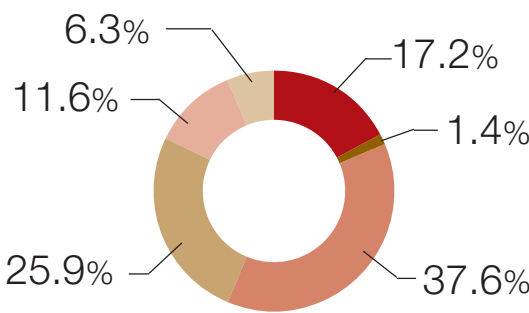
株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
株式会社リコー	16,792	21.7
財団法人新技術開発財団	5,294	6.8
コカ・コーラホールディングズ・ウエストジャパン・インク	4,074	5.3
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	3,776	4.9
株式会社西日本シティ銀行	3,703	4.8
メロン バンク トリーティー クライアンツ オムニバス	3,542	4.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,155	4.1
昭和炭酸株式会社	1,590	2.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,479	1.9
高倉 一恵	1,338	1.7

(注)当社は、自己株式5,227千株を保有しておりますが、上記の表には記載せず、議決権比率の算定にも含めておりません。

● 所有者別株式数の状況：

	株主数(名)	所有株式数(千株)
■ 金融機関	68	14,290
■ 証券会社	30	1,157
■ その他の法人	312	31,198
■ 外国法人等	204	21,454
■ 個人その他	16,870	9,570
■ 自己株式	1	5,227
	17,485	82,898

〈株式数の構成比〉



株主メモ (平成17年6月30日現在)

決 算 期 毎年12月31日

定 時 株 主 総 会 毎年3月

株 主 確 定 基 準 日

- ・ 定時株主総会、利益配当金 12月31日
- ・ 中 間 配 当 金 6月30日

その他必要があるときは、あらかじめ
公告して定めます。

名 義 書 換 代 理 人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
(〒540-8639)
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 東京都府中市日鋼町1番10
(〒183-8701)
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417

(その他のご照会) ☎ 0120-176-417

同 取 次 所 住友信託銀行株式会社 全国各支店

公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

貸借対照表および損益計算書は、決算公告に代えて、
当社ホームページに掲載しております。
(<http://www.ccwj.co.jp/ir/kessankoukoku.html>)

株主優待制度 (平成17年6月30日現在)

**コカ・コーラギフト券1枚で、
500ml PET製品4本と
お引き換えいただけます。**



毎年6月30日現在および12月31日現在の100株以上ご所有の
株主さまに対し、ご所有株式数に応じて右記のとおり「コカ・コーラ
ギフト券」をそれぞれ同年9月頃および翌年4月頃に贈呈いたします。
「コカ・コーラギフト券」1枚でコカ・コーラ社製品(500ml PET製品
(一部の製品を除きます))4本とお引き換えいただけます。

贈呈基準		優待内容	贈呈時期
基準日	ご所有株式数		
6月30日	100株以上 500株未満	コカ・コーラギフト券 3枚 (1,764円相当)	同年9月頃
	500株以上 1,000株未満	コカ・コーラギフト券 4枚 (2,352円相当)	
	1,000株以上 5,000株未満	コカ・コーラギフト券 6枚 (3,528円相当)	
	5,000株以上	コカ・コーラギフト券12枚 (7,056円相当)	
12月31日	100株以上 500株未満	コカ・コーラギフト券 3枚 (1,764円相当)	翌年4月頃
	500株以上 1,000株未満	コカ・コーラギフト券 4枚 (2,352円相当)	
	1,000株以上 5,000株未満	コカ・コーラギフト券 6枚 (3,528円相当)	
	5,000株以上	コカ・コーラギフト券12枚 (7,056円相当)	



<http://www.ccwj.co.jp/>

ホームページをリニューアルしました。

平成17年8月に、当社のホームページをリニューアルいたしました。

当社のホームページは、新商品をはじめとする商品情報やキャンペーン情報、会社情報などが盛りだくさんです。

また、株主・投資家さま向けの情報も充実しておりますので是非ご覧下さい。



コカ・コーラウエストジャパン株式会社

〒812-8650 福岡市東区箱崎七丁目9番66号
TEL (092) 641-8581



古紙配合率100%再生紙を
使用しています



この冊子は環境にやさしい大豆インキを
使用しています